

グループホーム郷
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170401699		
法人名	有限会社介護サービス郷の家		
事業所名	グループホーム郷		
所在地	札幌市手稲区前田5条15丁目2-8		
自己評価作成日	R5. 3. 10	評価結果市町村受理日	R5. 4. 5

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401699-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍であっても日々穏やかに暮らせるような環境作り。 ・入居者の日々の健康管理の徹底。 ・食の楽しみが感じられるように。 ・季節の楽しみが感じられるように。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR手稲駅から徒歩圏にあり、バス停から5分程度の住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。下宿を改築した建物で、温かみがあり、装飾や調度品も家庭的なものを揃えている。居室は比較的広く、カーペットを敷いたり、ベッドや家具、テレビなどを好みの配置にして、居心地よく過ごせるようにしている。職員が利用者に明るくやさしく接しており、利用者の表情も明るい。利用者同士のコミュニケーションも良好である。感染症流行前は事業所のお祭りには地域住民が参加するなど多くの交流があり、流行収束後の再開を目指しているところである。現在も事業所の畑で採れた野菜を近所に配ったり、何かあれば相談に乗るなど地域のお年寄りの見守り役となっている。家族との関係では、家族が職員や管理者、代表者に気軽に相談できている。また、利用者の写真と個別の手紙を毎月家族に送付し喜ばれている。食事の面では季節感を加えた独自のメニューで美味しい食事が提供されている。事業所の畑で採れた野菜も食卓に上っている。外出支援の面では、日常的な散歩や外気浴、通院で外に出るほか、年間行事で、雪まつり見物、星観緑地での花見、小樽へのドライブなどを楽しんでいる。地域に溶け込み、利用者が安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に掲示し、繰り返しスタッフと確認し、実践している。	独自の理念の中に「地域の中で一人一人がその人らしく生き生きと暮らせる」という内容があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を居間に掲示し、職員は理念の文言や内容をよく理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者は町内会員となっており、事業所はごみ当番にも参加している。近隣住民と畑の収穫物のおすわけも行い、日常的に交流している。	感染症流行前は事業所のお祭りには地域住民が参加しており、流行が落ち着いたら再開する予定である。今は事業所の畑で採れた野菜を近所に配ったり、散歩の際に会釈している。事業所が地域のお年寄りの見守り役となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	手稲区、西区からの問い合わせが増えてきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍でなかなか顔をみながらの会議は難しいが、ホーム内で会議をし、会議報告書を各委員へ提出して確認してもらい、疑問点や要望などを聞いている。	現在は年6回、文書による会議を開催し、職員が話し合った内容を議事録にし、メンバーに送付している。最近は報告事項以外のテーマ設定は行えておらず、家族のメンバーへの参加も得られていない。	実際の会議に向けて、報告事項以外の各回のテーマを用意することを期待したい。家族に参加を呼び掛けるとともに、参加が難しい場合でも会議案内や議事録を送付し、意見を収集することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに相談し、連携を取るようにしている。	市役所には管理者が直接出向いて、感染症対策や職員の処遇改善について相談している。区役所の保護課職員とも密接に情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員の開催、身体拘束に関する研修を行い、不適切なケアを行わないよう、取り組んでいる。	身体拘束を行っておらず、年4回の適正化委員会と年2回以上の勉強会を行っている。勉強会で禁止の対象となる具体的な行為を学んでいる。利用者が一時的に不穏になるとき以外は、日中玄関を施錠しておらず、自由に出入りすることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルにもとづき、定期的に研修を行い、日々のケアを行っている。		

グループホーム郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や短時間の訪問時など、家族の要望を聞き取り、また利用者からの要望も運営に反映するようにしている。	家族の来訪時や家族が管理者に直接電話をかけてきた際に意見や要望を聞いている。得られた意見や要望をスタッフノート、管理者ノートに記載し共有している。毎月、利用者ごとに写真と個別の手紙を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談などにより、反映できるように努力している。	職員は普段から活発に意見交換しており、管理者や代表者も意見を言いやすい環境を整えている。職員の意見を参考に個別のケアについて具体的に改善している。職員は室内装飾や備品管理、行事などの業務を自主的に分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り個別に対応し、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などにより、スキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	思うように交流はできていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ホームでの生活に早く慣れることができるよう、ゆっくり話を聞き、できるだけ不安を取り除けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望などの聞き取りを行い、信頼関係を築いていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんと職員は家族のような関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えていけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めてはいるが、コロナ禍もあり、難しくなっている。	現在、知人の来訪はないが、2名ほどの利用者に手紙や電話が来ており、手紙の返事を作る際は職員が手伝っている。通院帰りに懐かしい風景を見たり、手稲神社のどんと焼きと一緒にいった利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活リズムやペースを大切にしながら、カラオケや体操などのレクを行い、利用者同士が関わりあえる環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々のかかわりの中でコミュニケーションを大切に、本人の希望や考えを尊重するように努めている。	大半の利用者は言葉で思いを表出でき、普段の会話の中から思いや意向を把握できている。基本情報シートに生活歴や趣味・嗜好を記載し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。体調や気分配慮し、臨機応変に対応し、スタッフ間でもしっかり引き継ぎを行うようにしている。家族へ送付、確認をしてもらっている。	介護計画を3～6か月の期間で見直ししている。課題分析シートと評価シートをもとに会議で話し合い計画を更新している。個々の24時間生活変化シートにケアプランに関する支援を記録しており、さらに意識して記載する方針としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎやノート等で共有し、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院と連絡を密にし、適切な医療を受けられるよう支援している。	ほとんどの利用者が協力医による往診を受け、1名はかかりつけ医に通院している。内科以外の受診もおおむね事業所で通院を支援している。受診記録を作成し、職員間で共有している。	

グループホーム郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換を行い、協働している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を聞き、病院と連携しながら可能な限り対応している。	利用開始時に重度化した場合や看取りについての事業所の方針を口頭で説明している。重度化した場合は家族の希望を聞き医師とも相談の上、事業所のできる範囲の支援を行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、訓練を行っている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っており、感染症流行前は消防や住民の指導、参加を得ていた。職員の救急救命訓練は受講後、間隔のあいた職員もいるが、再度進める予定である。災害時の備蓄品、必需品リストを作り、順次整えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。	一人ひとりのこれまでの人生を受け入れ尊重する事を大事にケアしている。申し送り時はイニシャルとしたり、名前が他の利用者に聞こえないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をよく聞き、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		

グループホーム郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることの範囲で職員とともに行っている。	食の楽しみを大切にしており、食材にこだわり施設内で手作りしている。誕生日やひな祭り等の行事には好みの物に変更し喜ばれている。食後の片付けは利用者と一緒にすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自力で排せつできるよう見守り、支援を行っている。	24時間生活変化シートに排便記録と時間ごとの排尿記録をつけ、排泄パターンを把握しさりげない声かけで8割の利用者がトイレで排泄できている。夜間は安全のため居室内でポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	支援している。	1人当たり週2回の予定で入浴できるようにしている。体調の変化や受診に合わせて変更する事もある。ゆったりと入浴できる大きめの湯船で好みの湯の温度に調整しており、入浴を楽しみにしている利用者が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		

グループホーム郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝の散歩やドライブなど、戸外にも出かけられるよう支援している。	天候が良い時は施設周辺の散歩を日課とし、車いすの利用者も外気に触れる機会となっている。施設の畑でブドウなどの収穫を楽しむこともある。感染予防に注意しながらドライブに出かけることが多く、星観緑地での花見は恒例になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出し、落ち着いた雰囲気作りや穏やかな生活空間を保てるようにしている。	家庭的な雰囲気の食堂と居間があり、居間のソファでゆっくりとくつろげるようになっている。カラオケ機器を設置し、職員と一緒に楽しんで笑顔溢れる穏やかな時間が流れるように配慮している。階段には昇降機を設置し、安全にも配慮している。季節ごとの装飾や生け花で季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はこれまで使っていたものや家具を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはガスストーブ、スプリンクラーを設置して安全に配慮している。机、仏壇など馴染みの家具を持ち込み、趣味の作品や家族の写真を掲示している。本・新聞などを手の届くところに置くなど、自宅にのような雰囲気を感じられるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム郷

作成日：令和 5年 4月 4日

市町村受理日：令和 5年 4月 5日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	現在は年6回、文書による会議を開催し、職員が話し合った内容を議事録にし、メンバーに送付している。最近では報告事項以外のテーマ設定は行えておらず、家族のメンバーへの参加も得られていない。	会議に向け、報告事項以外のテーマを用意する。家族への参加の呼びかけをし、参加が難しい場合、会議案内や議事録を送付し、意見を収集する。	運営推進会議に向け、テーマを考える。今後も継続して家族への運営推進会議へ参加を呼びかける。参加が難しい場合には会議の案内や議事録を送付して意見を収集し、サービスの向上に活かしていけるようにする。	3か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。